

こんなことありませんか？ レーダーから解決方法を考えられます！

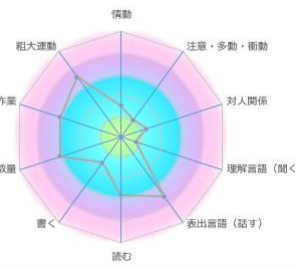
「注意されても同じことを何度も繰り返す」、対人トラブル多めタイプ…



毎度謝るものの…繰り返すよなあ～



こんなレーダーです



～ このレーダーと困りごとから見えること ～

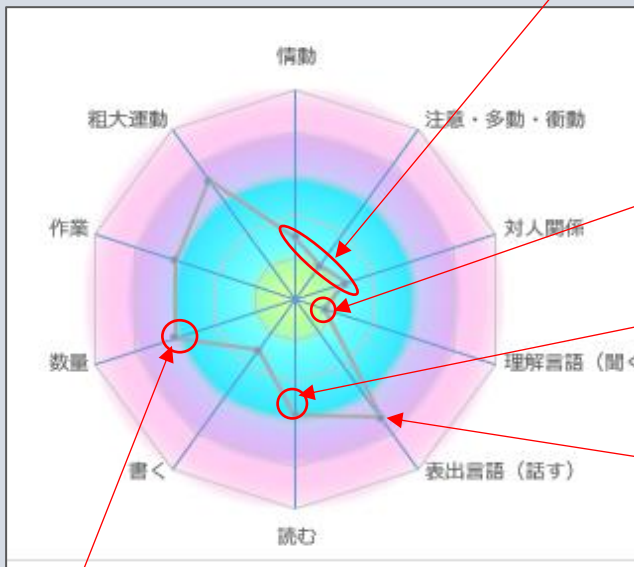
・理解できることが増えることで、気持ちが安定し「情動」が伸びます。気持ちが安定すると「注意・多動・衝動」の行動面も落ち着きます。そして、他者と折り合いをつけることを学び、対人関係も良くなって。

・聞く力の弱さにより、注意されている意味がわかりにくいことがうかがえます。

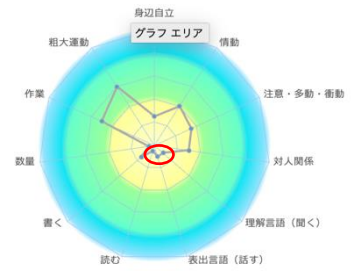
・意味を理解するためのインプット方法が「聞く」（言葉のみで伝える）より、「見る」（言葉+視覚化）の方が有効です。

・聞く力に比べ、話すことが得意でよく喋るなので、理解できているように思われがちですが、案外使っている言葉の意味がわかっていないことや、今聞いた言葉を脳に保持するが苦手な場合があります。

・計算が得意なことから、考える力がある「できる子」に見えがちです。計算や算数的なことが得意でも、言葉の理解の弱い子は多いです。レーダーから見えない特性をつかんで支援方法を決めていきましょう！

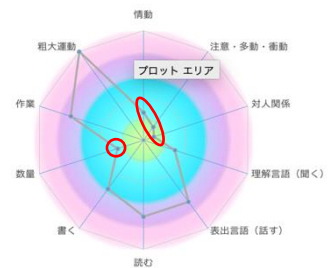


何度言ってもわからない



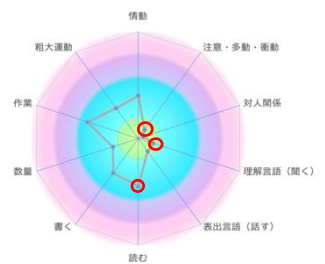
・理解言語「聞く」、読む(視覚からのインプット)、表出言語「話す」の全てが得意ではない場合、言葉を理解できていない可能性があります。繰り返し体験していることは覚えており、一見言葉で理解をしているように見えても、言葉を理解しているのではなく、流れでルーティーン化されて身につけて、できていると状態だと考えられます。こんな場合は、言葉と意味を丁寧に教えていくことが大切です。発達年齢にあった語彙の内容が理解できるような読み聞かせ(視覚と聴覚両方からのインプット)で簡単な言葉の理解を促し、絵カードやサインをプラスして話しかけるようにし、言葉や言葉に変わるツール(絵や写真・サインなど)での「やりとり」を重ね、言葉が“わかる”ようにしていきましょう。そうすることで、本人も支援者も楽にコミュニケーションできるようになっていきます。

友だちの気持ちを考えずに言いすぎる



・数量の分野が得意でなく、論理的な思考が苦手です。物事の順序や関係性の理解より、自分の気持ちを優先し、自分の理屈を展開してしまいます。本人は、状況の理解がうまくないので、思い通りにいかないことでイライラばかりが募り、余裕がありません。まずは、気持ちのコントロール方法を身に付けましょう。そのために、自分勝手な言い分でも、まずは大人が話を聞いてあげることが重要です。大人が気持ちを受け止めてあげること、気持ちを落ち着け、落ち着いて聞くための“心の余裕”ができてから、本人の気持ちの理由や、相手の気持ちの理由を順序立てて紙に書いて整理して理解をするなど、理解を補う工夫をしながら、自分の気持ち・相手の気持ち・相互の関係性について、丁寧に振り返って学習し、理解する経験を重ねることが大切です。すぐにうまくいかない場合が多いですが、積み重ねることで、自己理解、他者理解、状況を理解する力が深まり、生きやすさにつながる力が身につけていきます。

いつも自分の世界にふけり、指示が聞けない



・理解言語「聞く」ことが得意でない場合や、「注意・衝動・多動」の中の不注意が目立つ場合が多いです。「聞く」力を支えるためには、本人に聞きとりやすい工夫が必要です。全体への指示だけではなく、個別に名前を呼び、話す前に必ずアイコンタクトを取ってしっかり注目をさせてから話すことや、「今から話すよ、聞いてね!」と、事前に聞くための心づもりを持たせること、また、聞いて欲しいことを、本人にとって理解しやすいように伝える工夫も必要です。「読む」(視覚からのインプット)が得意であれば、文字やイラストで視覚的に伝えることが効果的です。